

004

自治体や民間企業との連携強化により「災害への備え」について伝える

取組主体

特定非営利活動法人福島県防災士会

従業員数

想定災害

実施地域

128人

全般

福島県

・自助と共助で地域の安心を守るため、ゲームや防災グッズづくりなどを取り入れ、楽しみながら学べる防災プログラムを実施。

1 取組の概要

地域で防災の普及啓発に取り組む

・福島県防災士会は、「マイ避難＝日頃から一人一人が自分に合った適切な避難行動について考え、備えること」を福島県民に広く伝えるため、防災訓練や講話を通じて防災の普及啓発に取り組んでおり、地域で楽しみながら学べる防災イベントやワークショップを多数実施している。

大規模防災イベントへの参加

・福島県郡山市内のビッグパレットふくしまにて、防災に関する情報・製品・技術を紹介するイベントである「福島県そなえるふくしま 2023」に参加した。実際にロープを使い、巻き結びで立ち木に結び付ける方法や流された人を救助する方法など役立つ知識を伝えた。



大規模イベントの様子

福島県総合防災訓練におけるワークショップ開催

・毎年福島県総合防災訓練を行っている。2023年の防災訓練では避難所運営ゲーム（HUG）と呼ばれるカードゲームを使用し、避難所運営の模擬体験を行った。このカードゲームは、限られた時間内でいかに多くの避難者を受け入れられるかなど、工夫の仕方をゲーム感覚で学べるものである。さらに、ビニール袋や新聞紙、ラップなど身近なものを使い災害時や避難時に役立つ防災グッズづくりも行われた。

2 取組の特徴（取組の狙い、工夫した点、差別化した点等）

“防災”を楽しみながら学べる工夫

・防災講座の堅苦しいイメージの払拭と、依頼元のテーマや方針に沿ったプログラム開催を意識して、企画や運営に取り組んでおり、依頼元のニーズに応じて複数の防災講座メニューを用意している。防災を楽しみながら学べる機会を多く作り、福島県民に広く啓発・紹介する活動を続けている。

災害図上演習やマイ・タイムラインづくり等体験型を用意

・地図を用意し、ここで災害が起きた場合はどの道を通り避難するか、または迂回をする際はどう進むかなどをゲーム感覚で学べる演習を行った。また、災害に備えて自分自身や家庭に最適な避難行動を一緒に考えるワークも実施した。



楽しみながら学べる工夫を意識

3 取組の効果

- ・防災士養成にも力を入れ、講座への参加者が増えつつあり、県内で資格取得者が4,085名ほどにまで増えた。
- ・大規模防災イベントである「そなえるふくしま 2023」では、60もの防災関連団体や防災関連企業が出展、さらに約2,200名の参加者とともに防災を学び体験することができた。

4 取組への想い

- ・東日本大震災時には福島県内には防災士会がなく、全国各地の防災士の受け入れ態勢が整わなかったため、宮城県が中心となって活動を行っている状態だった。このことを受け、2012年8月に有志26人により防災士会の活動が開始された。それ以降は、自助と共助の知識を福島県民に広く持ってもらうため、数多くのイベントや講習会を開催。今では年間50回以上もの講習会等を実施している。そのほか、県内の自治体や企業からも依頼を受け、自然災害に備える必要性を積極的に伝えている。
- ・講習会ではゲーム性を取り入れた避難所運営の模擬体験や、参加型の防災グッズづくりを実施する等、講習会の堅苦しいイメージを払拭し、親しみやすさを持って数多くの人に参加してもらうためにさまざまな工夫を取り入れている。

5 防災・減災以外の効果

- ・NHK福島放送局や福島中央テレビ・テレビユー福島とも協定を締結。「防災・減災・備え」に関する情報の提供を行っており、地域メディアでの発信が増えた。

6 現状の課題・今後の展開等

- ・現在、福島県内を5つのブロック（県北、県中・県南、会津、相双、いわき）に分けて活動しているが、それぞれに地域の特性や災害発生状況が異なり、対応策に苦労するが、地域の方々のリクエストに応じて個別プログラムの開発を行っている。
- ・また、広大な面積に59市町村がある。大雪の降る地域もあり、活動期間が限定されてしまうこともある。1年を通じた活動や要望へ応えていくことにも努めている。
- ・今後は、会員への情報提供や防災・減災・備えに関する勉強会などの会員サービスの更なる向上を目指していきたい。
- ・また、福島県内全体での協力体制を構築していくために福島県内の59市町村と地元防災士会員との連携で災害対応や講演会を行っていきたい。

7 周囲の声

- ・「防災の講義は、つまらない、面白くないことが多かったが、楽しく学べた。」（防災士講座参加者）
- ・「防災グッズづくりを機会にもっといろいろなものを知りたくなり、次を企画したくなった。」（防災士講座参加者）
- ・「改めて地元の災害に触れて備えの大切さがわかった。」（イベント参加者）

担当者の声

- ・福島への移住を考えている方には、顔を覚えて挨拶ができる関係を早めにつくってほしいと考えています。そのことが災害時の助け合いにつながります。
- ・防災以外にも、地域の行事や集会には積極的に参加していただくことが望まれます。それが「備えの一步」になります。

問合せ先	動画	サイト URL
特定非営利活動法人 福島県防災士会 電話番号：0246-45-1045（葬祭ホールあすか内） FAX：0246-26-8896 E-Mail：t_waragai_bousaisi_19617@yahoo.co.jp URL：http://fukushima-bousaishi.com/	—	